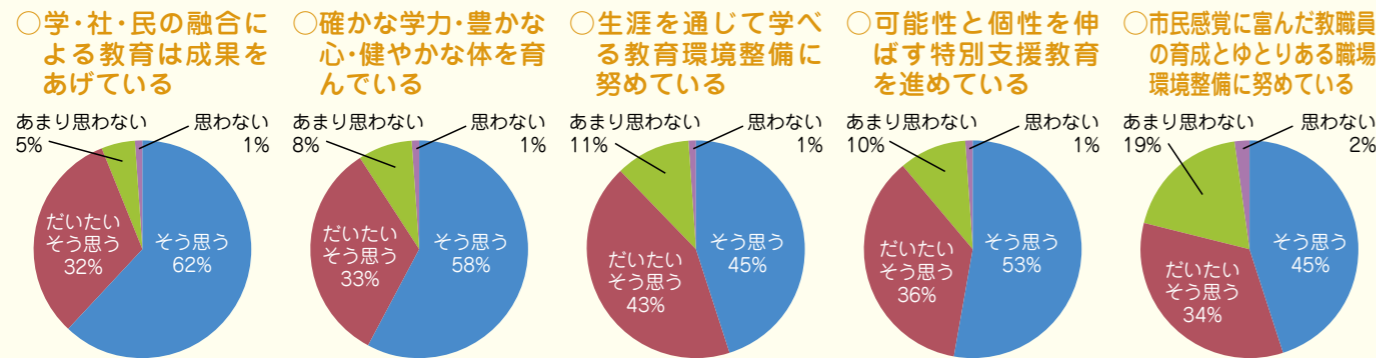


# 『新潟市教育ビジョン』のこれまでとこれから

新潟市教育ビジョンの中では、新潟市が目指す子どもの姿、市民の姿を、「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」「生涯を通じて学び育つ、人間力あふれる新潟市民」としています。それらを具現化するために、さまざまな施策や事業を実施計画としてまとめ取り組んできました。特に、後期実施計画(平成22～26年度)においては、重点的に取り組んでいく施策とそれぞれの方向を「5つの『学びの扉』」として示しています。計画最終年度となる今年度は、市民対象のアンケートを実施し、この「5つの『学びの扉』」についての成果と課題を検証するとともに、平成27年度以降の教育ビジョンの進むべき方向についての意識調査を行いました。

## (1)「新潟市教育ビジョン」8年間の評価

新潟市教育委員会では、「新潟市教育ビジョン」の成果について評価いただくため、アンケートを実施しました。その結果、回答をいただいた方のおよそ8割の方々から肯定的な評価をいただき、教育ビジョンは着実に成果をあげていると考えています。特に、地域と学校パートナーシップ事業を核とした「学・社・民の融合による教育の推進」は、9割以上の方々から肯定的な評価をいただきました。アンケート結果の概要は、次のとおりです



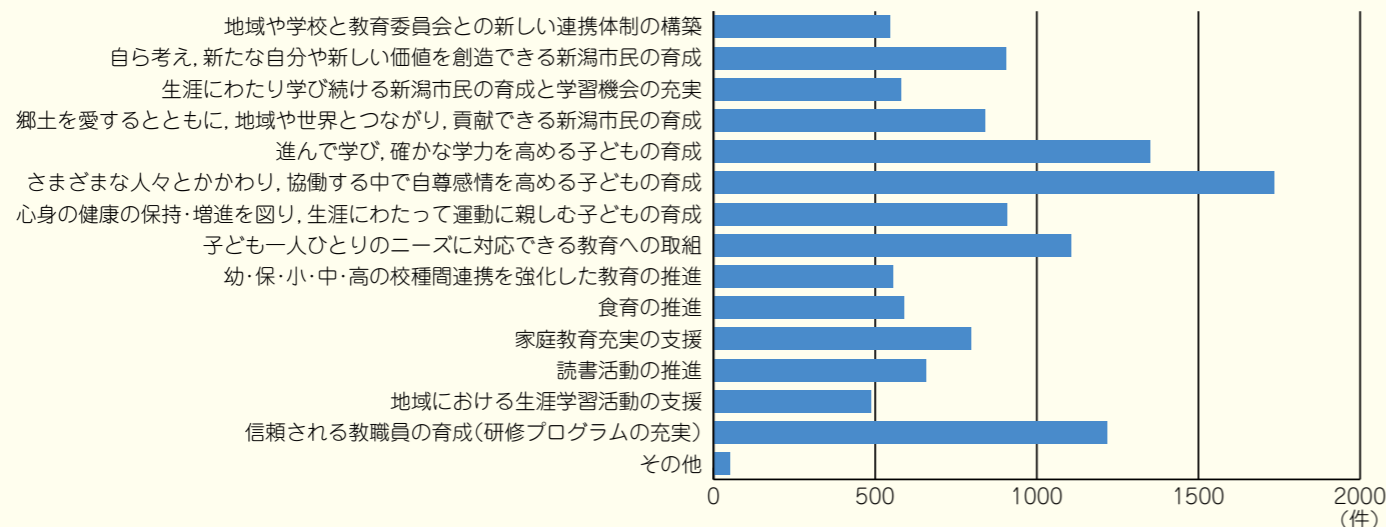
### 「新潟市教育ビジョン」アンケートの概要

- 実施時期 平成26年2月～3月
- 調査対象 学校教育関係：保護者、教職員、地域教育コーディネーター 等  
社会教育関係：公民館・図書館利用者、公民館運営審議委員、図書館協議会委員 等
- 調査票配布数：3,134 ●回収調査票数：2,481 ●回収率：79.2%

## (2)「新潟市教育ビジョン」のこれからの期待すること

上記アンケートでは、評価と同時に次期計画に期待することについてもご意見を伺いました。次のグラフは、その結果をまとめたものです。

この中では、「自尊感情を高める子ども」など豊かな心の育成や「確かな学力を高める子ども」など学力の向上を始め、「信頼される教職員の育成」や「子どものニーズに応じた教育」などが期待の高い項目でした。



## (3)「新潟市教育ビジョン第3期実施計画NEXT&NEW」の策定

新潟市教育委員会では、上記のアンケート結果などから、平成27年度以降の教育の方針について、現行の教育ビジョンの目標や構想を原則的に変更せず、前期・後期に続く第3期実施計画として策定することにしました。この第3期実施計画では、現行の教育ビジョンを継続しながら重点的に取り組む5項目「NEXT5」と新たな教育課題として取り組む5項目「NEW5」を設定しました。

### ◎後期実施計画の見直しを行ったうえで重点的に取り組む5つの方向「NEXT5」

- 学・社・民の融合による教育を推進します。
- 確かな学力・豊かな心・健やかな身体を育む教育を進めます。
- 子どもの読書活動を推進するとともに、市民が自ら課題解決を図るための読書環境を充実していきます。
- 子育てや各世代の学びに対する支援に努め、地域の教育力の活用を推進します。
- 市民から信頼される学校・教育機関となるよう、人材の育成と職場の環境整備を進めます。

### ◎新たな視点で取り組む具体的な5項目「NEW5」

- 未来の新潟を担う子どもたちの生きる力の育成のため、校種間の連携をさらに強めます。小中学校においては、一貫した教育への取組を始めます。また、幼保小連携の充実を図りながら新潟市における幼児教育の方向性について検討を進めます。
- 世界と共に生き創造性を発揮する新潟の子どもや市民の育成を目指し、コミュニケーション能力向上とICT活用への取組を進めます。
- 学校や公民館・図書館などにおいて、多様なニーズに応じた学習機会の充実を図るため、企業や民間団体と連携する取組を始めます。
- 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの構築に向けた取組を始めます。
- ニーズと課題に迅速に対応できる教育行政のシステムづくりと学びのセーフティネットの整備を進めます。

## この人に聞きたい!



この度、両川中学校(江南区)が校区の優れた取組を認められ、「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」を受けました。その中心となって活動している両川小、両川中学校の地域教育コーディネーターの佐藤尚子さんと小菅知美さんにお話を伺いました。

### Q1 地域教育コーディネーターの活動をされていて、一番印象に残っていることはどんなことですか。

全校生徒が30kmを歩く行事「チャレンジウォーク」で、6年前、地域から初めて参加者を募ったところ、申し込みが83歳の男性一人だけでした。その方が見事完歩したことをたより等で地域に紹介したところ、次年度以降、参加者が少しずつ増えていきました。83歳のたった一人の参加から活動の輪が広がっていったということ、また、その方が毎年楽しみに行事に参加してくださり、来年度は90歳の記念ウォーキングになると張り切って歩く練習をしていることが感動的です。

### Q2 地域教育コーディネーターが学校に配置されたことで、「学校が変わった」、また、「学校とかかわる地域が変わった」と思われるのはどんなことですか。

学校では、地域の方にボランティアをお願いする時に、職員の事前説明や当日の対応など、ボランティアの方や私たち地域教育コーディネーターへの接し方が丁寧かつ温かくなってきていると感じます。地域では、「あの人がボランティアで学校に行くのなら自分も行ける」という思いが広がり、ボランティアの輪がどんどん広がっていった結果、地域住民にとっての学校の敷居が低くなり、以前より来校者・学校支援者が増えてきていると感じます。

### Q3 『学・社・民の融合による教育の推進』を掲げて取り組んできた新潟市の教育についてどのようにお感じですか。

文部科学大臣表彰授賞式に出席した時、札幌の教育委員会の方が「新潟市を視察させていただいた時、地域教育コーディネーターが全校配置され、学校と地域との連携がとても進んでいることに驚いた」とおっしゃっていました。新潟市の地域教育コーディネーター制度は全国に誇れるものだ実感しました。地域で頑張っている人を、地域の未来を担う小中学生にどんどん紹介していくことは、とても意義あることだと思います。だから、地域の方が学校に入って教育支援することについて、学校職員の皆さんの理解がどんどん高まっていくことを願っています。